

『こどものための英米文学』武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2010年2月
プロローグ, p. 3

1 「こども観」とは

- 1) 「子供」「子ども」「こども」の表記, p. 4
- 2) 「児童」とは, pp. 5-7
- 3) 「こども観」比較考, pp. 7-9
- 4) こども学, pp. 9-11

2 「昔話・お伽話・童話・少年文学」から「児童文学」へ

- 1) 明治以前の「昔話・お伽話」, p. 12
- 2) 明治初期 童話と児童観、児童文学, pp. 12-16
- 3) 「児童文学」とは何か, pp. 16-17
- 4) エレン・ケイ『児童の世紀』, pp. 17-18
- 5) 『赤い鳥』とそれ以後, p. 18-21

3 ヨーロッパの児童文学

- 1) 童話, pp. 22-23
- 2) ファンタジー, pp. 23-25

4 日本に英米文学が紹介された頃

- 1) 受容のあり方について, pp. 26-31
- 2) 英米児童文学の紹介, pp. 31-34

5 文学作品の変容

- 1) 活字化から舞台へ, p. 35
- 2) マンガ化、アニメ化、映像化, pp. 35-38

6 英米文学アラカルト

- 1) 英文学, pp. 39-56
- 2) 米文学, pp. 56-62
- 3) 科学とファンタジー, pp. 62-83

エピローグ, pp. 84-85

注, pp. 86-90

資料

- 1) 「児童文学」に関する資料（戦後を中心に）, pp. 92-109
- 2) 「子ども観」に関する資料（戦後を中心に）, pp. 110-117
- 3) こども観・児童文学史関連年表（日英米を中心に）, pp. 118-123

おわりに, p. 124